

「雪を寒剤にして楽しむ(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

雪の結晶は、通常の方法では、降ってきた雪粒が地上(物)に着地した直後の数秒間しか観察できない。しかし、地上に積もった雪は、非常に教材性が高い。それは「寒剤」としての利用価値である。



雪が降ったあとも、東京は非常に気温が低かったので、翌々日になっても校庭の雪はほとんど融けていなかった。幸い全天候の周縁部の雪は、高学年の子どもが除雪をしてくれて融けていたので、「雪の採取」には誠に好都合だった。



子どもたちは、校庭の雪にのれただけでも大喜び。雪の採取よりも、雪の感触を楽しむほうが嬉しかったようだ。しかし、今回は「理科の授業中」雪合戦をしに来たのではないことは、子どもたちもよくわかっていて、さっそくきれいな雪が残っているところを探しまわっていた。



校庭に出る前に、「なるべく足跡のない、きれいでシャリシャリした雪をとってくる」と指示をしておいた。踏み固められていない雪のほうが、実験に適しているのだ。



採取はあえて素手でさせた。雪の冷たさや感触を確かめる為だ。容器は100円ショップで購入したDVDの保管ケース。蓋がついていて、運搬にも便利だ。



10分ほどかけて、あーだこーだ言いながら、全部の班が無事に「実験材料」を採取することができた。